

## 三木山森林公園の生物多様性への取り組みと特徴的なシダ

増田貴志(三木山森林公園管理事務所) 松尾幹生・中川貴美子(三木山サポーター)

### はじめに

三木山森林公園は平成5年5月に三木市内に開設された面積80haの県立公園です。開園以前は当公園を含む広大な区域が国有林として管理されてきたため、道路や住宅や工場に接する市街地にありながら開発造成などの都市化の影響を受けることが少なく、比較的良好な自然環境が維持されてきたといえる場所です。

モリアオガエル・アカガエルなどの繁殖やトチカガミ・イヌタヌキモ・サイハイラン・コ克蘭・ムヨウランなどの生育が現在の園内の自然環境を示しているといえます。

また、キツネ・タヌキやハイタカ・カワセミ・フクロウなども確認しています。

平成21年度からはこれまでの自然環境の維持管理を一層進めるべく、生物多様性の保全に積極的に取り組んでおり、ススキ・チガヤ草原の創出や水辺環境の整備をはじめました。

そして東播磨地域の郷土植物であり秋の七草に代表されるキキョウ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマや近年身近な場所から消えつつあるジュズダマ、タヌキマメ、ユウスゲなどを種子から育成し栽培しています。

### 調査方法

開園以来、園内の生物調査を継続しており、鳥・昆虫・植物・キノコのデータを蓄積しています。また、当園の飛び地的な位置にある東地区10haは公園として一般開放していないため開園以来ほとんど手つかずの状態維持されており、郷土の自然を知る貴重な手がかりとなる場所といえます。

植物調査は平成21年度からの新たなボランティア組織「三木山サポーター」のグループ活動の一つである「植物調査グループ」が中心になって毎月2回の調査を行ってきました。

また、平成5年の開園当初から「ひょうご森の倶楽部」が東地区を活動地として維持管理に取り組んでおり、月1回の活動時に植物調査を継続してきました。

### 結果

現在確認している園内の野生シダは60種で、その中では県内での自生地が限定されているオオカナワラビの発見が特筆できます。

またイノデ類が5種あり、雑種系統についての詳細な調査が必要となっています。

その他で特徴的なシダとして、ナンゴクナライシダ、キヨスミヒメワラビ、ハカタシダ、ヤマイヌワラビなどを記録しています。

### まとめ

地球環境の激変と異常気象の多発が世界的に問題となっています。

生物多様性の保全や必要性もそのような時代背景からの要請であるのでしょう。

市街地にエアポケットみたいに、またオアシスみたいに取り残された三木山森林公園で生きる動植物たちをこれからも注意深く見守っていきたいと考えています。



オオカナワラビ



ハカタシダ



モリアオガエル



タヌキ